

科目名	機能性構音障害			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位
				必修・選択	必修	配当学年 時期	ST2年 前期
【授業の目的・ねらい】 国家試験に向けて必要な機能性構音障害に関する知識を学び、さらに臨床に必要な理論と治療方法を修得できる。							
【実務者経験】 姫路市総合福祉通園センター・特定非営利活動法人こども発達サポートセンターなどで小児発達分野の言語聴覚療法に従事経験。							
【授業全体の内容の概要】 機能性構音障害についての基本的事項を理解し、臨床に必要な治療知識・技術について講義する。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 国家試験に対応した知識を修得し、さらに臨床に必要な治療知識・技術をみにつける。							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	機能性構音障害についての基本的事項について理解できる。(1)						教科書・資料配布
2	機能性構音障害についての基本的事項について理解できる。(2)						教科書・資料配布
3	正常構音の構音運動について理解できる。 第1回 小テスト実施						教科書・資料配布
4	DVDを用いて異常構音について聴きとる力をつける。(1)						教科書・資料配布
5	DVDを用いて異常構音について聴きとる力をつける。(2)						教科書・資料配布
6	構音検査についての理解できる。						教科書・資料配布
7	構音検査について理解し、記入方法をみにつける。(1)						教科書・資料配布
8	構音検査について理解し、記入方法をみにつける。(2)						教科書・資料配布
9	構音検査の結果に基づく評価と治療計画について理解できる。						教科書・資料配布
10	治療計画に基づく治療方法について理解できる。(1)						教科書・資料配布
11	治療計画に基づく治療方法について理解できる。(2)						教科書・資料配布
12	機能性構音障害についての治療技術をみにつける。(1)						教科書・資料配布
13	機能性構音障害についての治療技術をみにつける。(2)						教科書・資料配布
14	国家試験過去問題を通じて、機能性構音障害についての総合的理解を深める。						教科書・資料配布
15	第2回 小テスト実施						
定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚療法シリーズ7 改訂 機能性構音障害							
【準備学習・時間外学習】 授業内で修得した内容について復習する。							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 小テスト（2回実施）を40点、定期試験を60点として合計100点とする。 60点以上の場合に科目を認定する。							